

## 「社会の要請と共用品（その1：市場の失敗）」

ことよしかず  
後藤芳一（日本福祉大学客員教授、東京大学大学院 工学系研究科教授）

共用品<sup>③⑥⑩⑬⑭⑮⑰⑱⑲⑳㉑㉒</sup>（小さい添え字<sup>①②</sup>は、同様の用語が本講の第1～82講に既出であることを示す）は、直接の需給だけでなく、背景にある社会<sup>①③⑤⑦⑧⑨⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒</sup>との関わりのもとで存在する。社会のありようと課題、求めるものと共用品の関係を考える。

### 1. 社会的課題

社会にある課題を国際的な視野で見ると、環境<sup>③⑤⑦⑧⑨⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒</sup>（産業公害、地球環境）、生物多様性<sup>③④</sup>、水、資源・エネルギー<sup>⑩</sup>、食糧<sup>⑫⑬</sup>、人口<sup>⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒</sup>、疾病<sup>⑲⑳㉑㉒</sup>、障害<sup>③⑤⑧⑩⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒</sup>、高齢化<sup>①⑤⑦⑨⑩⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒</sup>、災害、民族、文明、領土、グローバル化、労働<sup>⑲⑳㉑㉒</sup>、格差、貧困<sup>⑩</sup>、差別<sup>⑦⑧⑨</sup>、人権などがある。これらは原因・結果として互いに関わっている。技術が進歩し、社会や経済の制度が発展しているにも拘わらず、課題は複合化<sup>⑩</sup>・拡大し、持続性<sup>⑩</sup>に黄信号が点滅している。

### 2. 課題の生じる背景

課題が生じる背景には、より根本になる原因（自然、社会、経済）がある。自然（例：気象・気候、資源・エネルギー）、国際政治（例：リアリスト（現実主義）、リベラリスト（理想主義））、宗教、民族、人口などである。その並びで経済がある。資本主義経済とその中心である市場<sup>②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒</sup>の機構は効率と公正の機能を持つとされ、現代社会を発展させてきた。他方、それ自身が課題を生む一因にもなっている。その代表例が「市場の失敗」である。

### 3. 市場の失敗（その1：定義と伝統的事例）

市場には需要と供給を効率的に調整し、資源の最適分配を行う機能があるとされる。ただしそれは理想的状態（完全競争市場）を前提とする（完全競争市場：①市場に多数の参加者、②財やサービスの質が同じ、③情報が共有されている、④市場参入や撤退が自由、を同時に満たす状態）。

すべてを満たす市場はないため、「市場の失敗」（調整機能に偏り）が生じる。失敗例は独占・寡

占、外部性（ある経済主体の行動が他に影響を与える（マイナスの影響を外部不経済という（例：公害））、公共財、情報の非対称性、費用低減産業などである。その対策として政策<sup>①②④⑦⑧⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒</sup>による介入が必要とされる。具体的には、独占禁止法（独占・寡占）、環境規制（外部不経済）、政府によるインフラ整備（公共財）、消費者用製品の品質表示<sup>③④⑤⑥⑧⑨⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒</sup>義務（情報の非対称性）、幼稚産業の保護（費用低減産業）が行われてきた。

### 4. 市場の失敗（その2：今日的背景と対応の必要性）

こうした対策（政府による市場介入）が行われて来たにも拘わらず、社会的課題（上記1.）は深刻化している。その原因として、人口や経済活動の拡大で地球の有限性が顕在化（例：資源・エネルギー）、社会の成熟化（例：人口高齢化、成長の鈍化）、経済のグローバル化（例：地域が国際競争や状況の急変に直面）などの問題が影響を及ぼしていると考えられる。

問題には、伝統的な対策の範囲を超えるものも多い。例えば経済活動がグローバル化して一国の政府の対応の範囲を超える、情報化<sup>⑲⑳㉑㉒</sup>・グローバル化によって経済活動の規模が増し対策に大きい資源を要する、政府の財源に制約があり（高齢化等に伴う財政<sup>④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒</sup>制約の常態化）政府の力でできることに限りが生じているなどである。よって新たな対応策が求められている。

### 5. 対応の方向性と共用品

新しい取組みが広がりつつあり、課題対応の新しい方向性として注目される。例えば①伝統的主体（例：政府、産業）以外の存在が拡大、②伝統的主体が新しい役割を担う、③全く新しい性格の組織が出現、④③のうち運動自体が中心であるものなどである。①の例は市民（団体）、NGO・NPO、第3セクタなど、②は企業の社会的責任（CSR）など、③は社会起業家による非営利ベンチャーなど、共用品は④といえる。

## 「社会の要請と共用品（その2：市場の失敗を補う）」

ことよしかず  
後藤芳一（日本福祉大学客員教授、東京大学大学院教授）

**市場原理**②④-⑥⑩⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲ (小さい添え字①-③は、同様の用語が本講の第1～83講に既出であることを示す) に任せるままでは**社会的課題**①⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲が解けない場合や、課題が拡大する際の対応としては、①行動ルールを変える(下の1と2)、②各主体が課題解決に向けて働きかける(同1(の一部)と3と4)、③市場を進化させる(同5)という方法がある。

### 1. 政策的介入

公共性の大きさや課題の重さによっては**政府**①②④⑦⑧⑩⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲や**国際機関**自身が介入する。(1)法律や条約などで強制(例：**独占禁止法**③、**環境基本法**④-⑤⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲、**国連世界人権宣言**⑦-⑩⑫、**同障害者権利条約**⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲、**同機構変動枠組条約**、**同生物多様性条約**⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲)、**財政**④⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲(例：幼稚産業の保護)、**金融**(例：重債務貧困国イニシアチブに基づく債務救済(IMF、世界銀行))、**税制**(例：環境税制)などの政策を講じる、(2)国際的な指針など(例：OECD多国籍企業行動指針、OECD/DAC環境と開発に関するガイドライン)で介入するなどの方法がある。

### 2. 誘導的指針や枠組

課題に多様性がある、各取組み主体の工夫や柔軟な対応が必要な場合には、方法づけを与えて誘導する(例：指針、ガイドライン)ことが有効だ。政策的な強制策と企業の自発的取組みに委ねる方法の中間であり、ソフトローとも呼ばれる(例：サリバン原則、国連グローバルコンパクト、GRIガイドライン、SA8000(SAI)、SRI(社会的)責任投資)、**ガイド71(ISO/IEC)**①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲、**SR26000(ISO)**。今日的に生じている課題への対応策として、特に有効である。

### 3. 企業が取組み

企業が自発的に社会的課題に取り組む。その動機は時代とともに深まりを増している。(1)必要条件としての要請を満たす義務的取組み(例：企業統治、企業倫理、行動規範、コンプライアンス、ダイバーシティ)、(2)自発的ではあるものの奉仕的な精神で責任を担う(例：フィランソ

ロピー、メセナ、良き企業市民、環境報告書、カネギー、ロックフェラー)、(3)戦略的に分野を選んで事業モデルを組み、積極的に関与して課題の解決を図る(例：ボディショップ、マッチングギフト、ピンクリボン、テーブル・フォー・ツー、環境・社会報告書)、(4)経営や事業展開の一環としてマーケティングや全社の経営戦略に位置づけて展開(例：コース・マーケティング、統合報告書)などがある。

### 4. 社会的事業

個人や非営利組織が社会的事業として長く取り組んできた。(1)慈善・社会事業(例：教会、寺、赤十字、NGO、NPO、マザー・テレサ、アムネスティ・インターナショナル、世界自然保護基金(WWF))、(2)社会的企業(**起業**⑨⑩⑪)として社会的課題の解決をめざして設置した企業や団体と、その取組み(例：ルビコン・プログラムズ、フェア・トレード、株主行動、グラミン銀行、グリーン・ベルト運動、ピープル・ツリー、ベアフット・カレッジ、ラ・ファヘダ、ティーチ・フォー・アメリカ)、(3)事業や経済との関わりのもとで、実業界で実績を持つ経営者が本格的に関わり、投資・事業として課題解決をめざす取組み(例：アショカ財団、パケルソフト、アヴィナ財団)がある。

### 5. 市場を変える

①市場原理が市場の失敗を生むという伝統的問題に加え、②グローバル資本主義、株主資本主義など新自由主義(ここではネオリベラリズムの意味)は新たな社会的課題(例：格差、貧困)を生んでいる。今世紀の課題の中心は後者であり、新しい対応を求めている。

新しい価値軸を織り込む(例：トリプルボトムライン)、課題対応と事業性を折り合わせる(例：**アクセシブルデザイン**、**共用品**③⑤⑩⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲)、新しい生活・消費の価値観や様式(例：オーガニック、LOHAS、ソトコト、スロー)を織り込むなどで市場原理を修正し、進化させる取組みがなされている。

## 『社会の要請と共用品（その5：社会起業家新潮流〈その1〉）』

ごとうよしかず  
後藤芳一（日本福祉大学客員教授、東京大学大学院教授）

**社会的課題**<sup>①③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>（小さい添え字<sup>①-㉞</sup>は、同様の用語が本講の第1～86講に既出であることを示す）を**市場原理**<sup>②④⑥⑧⑩⑫⑭⑮⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>と調和させつつ解く方法として**社会起業**<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>がある。近年、新しい潮流が生まれている。

### 1. 社会起業家の新潮流

社会的要請（例：公共財、**貧困**<sup>㉑㉒</sup>）がありつつ**政府**<sup>①②④⑦⑧⑩⑫⑭⑮⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>の手が回らず、市場価値が認められないため企業も取り組めない場合がある。伝統的な社会起業家は、篤志家から**財源**<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>を得るなどして隔たりを埋めてきた。一方、財源を依存するため事業の発展に制約があった。

近年、より事業意識を持つ専門家や、事業で成功した経営者の参入が進み、新しい事業モデルも発展している。事業としても本格的であり、経営（学）に知見を返す例も増えている（例：世界の一流のビジネススクールが社会起業家を養成する課程を立ち上げている、その背景は、社会起業家の持つ能力（例：課題発見、課題の構造化、事業モデルの構築、マネジメント、求心力、挑戦、発信、これらを総じた事業創出力）が、民間・公共・市民セクターでも広く応用可能なためといわれる。

新しい潮流のもと、財団、寄付、慈善活動でなく投資とみてリターン求めるようになっていく。リターンとは、投入した経営資源を最大に活用して得られる、**社会や環境**<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>への配当（レバレッジともいう）という意味である。それを実現するために、自然、社会、人間、知識、文化面のあらゆる形の資産を評価の計算式に織り込んで、市場経済の恩恵を受けられていない多くの人たちに真の富を提供しようとする（社会的投資利益率（SROI=Social Return on Investment）=非財務の投資利益率を評価・測定といった試みも生まれている）。

代表的なモデルとして3つあげられる。

### 2. 事業モデル1：外部資金活用型非営利ベンチャー

公共財（例：**医療**<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>、**教育**<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>、**水**<sup>㉑</sup>）

を政府が適切に提供できず、民間企業も担えないなど「市場の失敗」が生じると、非営利（NPO）組織が埋めることがある。マザー・テレサ（印、貧困・医療）、ハビタット・フォー・ヒューマニティ（米、住居）、ベアフット・カレッジ（印、教育）などの例がある。

NPOは外部資金への依存意識が強く、営利目的にできる限られた機会を見逃すことが多い。資金提供者に比べてNPO数が増しているため資金を集めにくい。民間企業がパートナー関係を結ぶことは容易でない。その結果、事業の拡張が難しい。

### 3. 事業モデル2：混合型非営利ベンチャー

モデル1よりもビジネス的側面を持ち、利益を得ることについて関心が高い。利用者がサービスを確実に得られるよう、起業家は途中からマーケティングを計画することとなり、モノやサービスの販売を通じて事業コストの一部を回収する。それによって新たな市場が創出される場合がある。ルビコン・プログラムズ（米、貧困・雇用<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>）、アラビンド・アイ・ホスピタル（印、医療）などの例がある。

一般の投資家や企業にとって、より現実的なパートナーになり、これらが出資者になる場合もある。

### 4. 事業モデル3：ソーシャル・ビジネス・ベンチャー

得られる寄附金が限られるため、当初から営利組織として立ち上げざるを得なかった場合が多い。米国以外に例が多い。セケム（エジプト、**農業**<sup>㉑</sup>）、ラ・ファヘダ（スペイン、精神病患者・酪農）、グラミン銀行（バングラデシュ、貧困・金融）、ホールフーズ・マーケット（英、自然食品小売）などの例がある。

特別な使命を掲げて事業を興し、経済的リターンと社会的リターンの両方を求める投資家を探す。一方、**複雑**<sup>㉑㉒</sup>な問題に取り組みつつ利益を出し続ける必要がある点に難しさがある。

（本稿の表現は、ジョン・エルキントン、パメラ・ハーディガン「クレイジーパワー」（英治出版）から引用した）

# 「社会の要請と共用品（その7：国連『持続可能な開発目標（SDGs）』）」

ことよしかず  
後藤芳一（日本福祉大学客員教授、東京大学大学院教授）

国連<sup>①-⑩⑪⑫⑬</sup>（小さい添え字<sup>①-⑩</sup>は、同様の用語が本講の第1～88講に既出であることを示す）は9月25日に「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）<sup>⑭</sup>」を採択した。期間は2016年から2030年、幅広い社会的課題<sup>⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>を包括的に捉え、国際的に協力<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>して対応する。今年は大い節目の年となった。

## 1. 概要

SDGsは17の目標（ゴール）と、169のターゲットを掲げた。貧困<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>解消（目標1）、飢餓<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>終焉（目標2）、生活<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>・福祉<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>（目標3）、教育<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>（目標4）、雇用<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>（目標8）、不平等<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>削減（目標10）、都市と暮らし<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>（目標11）、消費<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>と生産（目標12）、気候変動<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>（目標13）、インクルーシブ社会<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>（目標16）が含まれる。

このうち目標3（あらゆる年齢のすべての人の健康な生活と福祉（well-being））、目標4（すべての人への包括的教育）、目標8（すべての人への完全で生産的で適切な雇用）、目標11（安全<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>、インクルーシブで持続<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>可能な都市と暮らし）、目標12（持続可能な消費と生産）、目標16（平和でインクルーシブな社会）は共用品<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>とも関わりが深い。

## 2. 経緯と背景

### (1) 経緯

国連は2000年から2015年まで貧困対策を目的として「ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals: MDGs）」を進めてきた。SDGsはその後継であることに加え、①より包括的（貧困から他へ拡大）、②先進国にも広げた。

### (2) 背景

SDGsは国連持続可能な開発会議（「リオ+20」、2012年開催）の決定を受けて策定された。SDGsは、①貧困は多くの原因が複合<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>して生じる（→分野を拡大）、②原因は途上国での開発行為だけでない（→先進国に拡大）、③条約<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>での取組み（例：気候変動、生物多様性<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>）は苦戦などの経験を映させている（→MDGs、SDGsは条約ではない）。SDGsは国際的な課題解

決方法を模索する意味もある。

## 3. 特徴と意義

SDGsの掲げる目標の多くは先進国にも共通する。貧困（格差）（目標1）、生活と福祉（目標3）、教育（目標4）、ジェンダー<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>（目標5）、水<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>（目標6）、エネルギー<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>（目標7）、雇用（目標8）、不平等（目標10）、都市と暮らし（目標11）、気候変動（目標13）などである。インフラ（目標9）、消費と生産（目標12）、インクルーシブな制度と社会（目標16）、国際協力（目標17）は対応策を示している。

並行する動きとしてESG投資がある。環境（Environment）、社会（Society）、企業統治（Governance）<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>の視点で事業や投資の価値を測る。2006年に国連が「PRI」（責任投資原則（責任ある投資家の取るべき行動）＝投資判断に際しESGの観点を組み込む、投資先にESGに関する情報<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>開示を求めるなど）を提唱したのが契機になった。年金積立金管理運用独立行政法人は9月16日にPRIに署名し、安部総理が国連総会演説で明らかにした。

今後は政府<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>が資金運用や投資を行うに際し、SDGsをESGの重要な指標にすることが考えられる。日本は遅れていた（例：ESG投資は世界の運用資産<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>の2割超、欧州<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>で5割あるが日本は1%未満といわれる）が、政府が注力し始めたことで、普及が加速する可能性がある。

## 4. 共用品との関わり

SDGsやESGの動きと共用品への取組みの共通点は、①対象とする分野（本稿1. 後段参照）、②社会への寄与と経済的価値を調和（方向性）、③政府や産業界<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟</sup>をはじめ幅広い関係者が国際的に協調（マルチステークホルダー・アプローチ）（体制）などである。改めて共用品の取組みが先進的であると分かる。

一方、SDGsから共用品へは、①他の分野との協力の必要性（課題は関わり合って生じる）、②相手（例：SDGsでは途上国、共用品では不便さのある人）への寄与を経て、自身（例：SDGsでは先進国）の問題も大きいと気づかされ、自身の内部を変える行動につながる点が参考になる。

物ごとを認知する方法について。

「ギリシヤ哲学は個々の対象物を念頭に、その対象物の特性を考えた。対象物の属性を考え、それを通じてその対象物が属するカテゴリーを見極め、そのカテゴリーに対して適切な規則を用いる」(文献Aから抜粋修正、以下同じ)。「ギリシヤ人は、対象物に規則を当てはめるにはまずそれを分類する必要があると考え、規則の適用範囲を最大にできるよう、常に高いレベルの抽象化をめざした」(文献A)。「中国人は、すべてのものは互いに関連しており、対象物が文脈に応じて変化するのは当然と考え、対象物をカテゴリー分けしても、たいして理解の助けにならないと考えた。カテゴリーや規則で理解するには、世界は複雑すぎる。他方、カテゴリーに関心を持たなかったため、さまざまなことを説明できる法則を見出せなかった」(文献A)。

日本福祉大学客員教授

# 後藤 芳一



連載 116

## 木を見る西洋人、森を見る東洋人

論のための規則を差違させた。論理学は科学へ簡単に展開できる」(文献A)。「中国の道教、儒教、仏教はともに調和と包括性を重んじ、その結果、中国哲学では個人の権利という概念が欠けた。調和を基本に生きていると、直接対決や討論の伝統を差違させにくい。むしろ、対立する考え方に直面すると、矛盾を解決し超越する「中庸」を見つけていくという弁証法的方法をめざす」(文献A)。

己があると感じており、世界全体をいくつかの実体から成る連続体とみて、ものごとの原因を、「場」や対象物と場の関係のなかに見出す」(文献A)。「(儒教は)社会を、相互に義務を果たすことを道徳の規準とする組織体とみて、自らをその組織体の一部分と捉える。中国では個人の権利は、共同体全体の権利のうちの個々人の「取り分」(文献A)。「自己と世界について。」

「西洋では、世界は自己の外に、自己に対立して存在すると考え、それを自己の側から見ると、東洋では、自己を世界の要素と考え、そうした自己をも含む世界と自己を、世界自身から見ようとする」(文献B)。「実在について。」

「ギリシヤ以来、西洋では、真実在は自然の外の、自然を超越したところにあるとした。東洋特に仏教は、真実在を自己や自然の外でなく、自己の最も内奥に求めた」(文献B)。「西洋では、ひとは決して神であること」

「西洋では、世界は自己の外に、自己に対立して存在すると考え、それを自己の側から見ると、東洋では、自己を世界の要素と考え、そうした自己をも含む世界と自己を、世界自身から見ようとする」(文献B)。「実在について。」

「西洋では、世界は自己の外に、自己に対立して存在すると考え、それを自己の側から見ると、東洋では、自己を世界の要素と考え、そうした自己をも含む世界と自己を、世界自身から見ようとする」(文献B)。「実在について。」

「西洋では、世界は自己の外に、自己に対立して存在すると考え、それを自己の側から見ると、東洋では、自己を世界の要素と考え、そうした自己をも含む世界と自己を、世界自身から見ようとする」(文献B)。「実在について。」

「西洋では、世界は自己の外に、自己に対立して存在すると考え、それを自己の側から見ると、東洋では、自己を世界の要素と考え、そうした自己をも含む世界と自己を、世界自身から見ようとする」(文献B)。「実在について。」

「お2人がおつしやりたいのは、むしろ、共用品という『思想』ではありませんか」筆者の長い説明を聞いたあと、高村さんが静かに言った。2008年6月26日の午後、神田神保町にある岩波書店の応接テーブルで、3人が向き合っていた。岩波書店編集委員の高村幸治さん、共用品推進機構専務理事の星川安之さんと筆者である。

思想という言葉に、筆者らは雷に撃たれたような衝撃を受けた。共用品は、思想なのか。それから3年近く経て、本ができた。先月28日、後藤芳一・星川安之著「共用品という思想」(岩波書店)が刊行された。

共用品は、暮ろしに不便さのある人たちに、一般と同じ仕様で提供することによって、需給双方が経済的負担を抑えられる。家庭電化機器、包装容器など、08年度の市場は3兆円である。

本書は共用品という存在、開発の取組み、共用品という考え方自体を、思想であるとした。

「共用品思想は、哲学者などが考えた、生き方や社会のあり方の奥義のようなものをい

日本福祉大学客員教授  
**後藤 芳一**



連載—131—▶▶▶

内側だけに供給してきたことである。境界線を引くことは、多数の側をよめるために生じる原罪のようなものであり、それによって不便さの生じる人たちがいた。

2年前のその日、岩波書店を訪ねる前に、星川さんと筆者は、共用品推進機構の事務局で材料をそろえた。共用品の事例としてシャンプー容器など、不便さ調査の報告書、ISOで定めた共用品のガイドライン、これまでの報道や出版物などである。

「たいしたの、共用品の活動を後まご伝える決定版を作ったのだ。筆者らは「教科書のようなものを」とお話しした。冒頭の高村さんの発言は、それに対する答えだった。

編集の専門家とは、こういうものか。ひと言で、共用品に思想という価値があると気づかせて下さった。

本を作る段階では、同書店の別の編集者である、山川良子さんから指南を受けた。時にやさしく時にはコワク。進みの遅い筆者は、昨夏、改めて、共用品はなぜ思想か。モノを作り、利用するなかでひっきりかきを感じた人たちがいた。その違和感を元に行動に移した。その結果が共用品である。

もし、ひっきりかきが不便さでなければ、出口は共用品でなかったかも知れない。要は、共用品自体ではなく、課題を形にする方法の価値である。環境、貧困など世界には多くの問題がある。不便さがあった支えられる側にはたまた共用品を通じてモノ作りに寄与できたことを合合わせる、どの立場からでも、社会の課題に寄与できることを意味する。

共用品の思想性は、そこに根ざしている。

# 「共用品という思想」

デザインの担当者が事業と折り合いをつけながら開発し、JISで規格化し、韓国や中国に呼びかけ、国際標準化機構(ISO)で国際規格にした。

共用品は、過去のモノ作りが残した課題への対応でもあった。

課題とは、工業化のもので効率良く供給するために、標準的な仕様で対応できる範囲とその外を境界線で区切り、

あわせると、ひと山になった。それを、キャスターのついた大きい旅行カバンにまとめ約30回。会議室は地下にある。窓はなく、四方は白い壁。社内では、取調室と呼んでいた。カバンの全部を広げて説明した。

「共用品は、80年代初めに、世界に先んじて日本で始まった。不便さのある人たちのニーズを調べ、それら当事者や消費者も加わり、企業の開発や

共用品は80年代初めに、世界に先んじて日本で始まった。不便さのある人たちのニーズを調べ、それら当事者や消費者も加わり、企業の開発や

共用品は80年代初めに、世界に先んじて日本で始まった。不便さのある人たちのニーズを調べ、それら当事者や消費者も加わり、企業の開発や

共用品は80年代初めに、世界に先んじて日本で始まった。不便さのある人たちのニーズを調べ、それら当事者や消費者も加わり、企業の開発や

\*シルバー産業新聞(2011年2月10日)より。

野鳥の鋭いこえが響き、空気が一気に冷やりとするようになった。

今月初めの夕刻、都内で関係者の集まる会があった。

『共用品という思想』重版記念「パーティー」である。

お茶の水の駅の近くに設けられた会場に、20名あまりの人たちが集まった。

顔ぶれは、岩波書店でこの本の編集を担当した高村孝治さんと山川良子さん、岩波書店と共用品の縁を結んだ大熊由紀子さん、鴨志田厚子さんほか共用品推進機構で共用品の開発、普及に取り組んできた人たち。

「共用品という思想」(後藤芳一・星川安之著)は昨年1月に、岩波書店から単行本として出版された。

その後、読者の支持と関係者の尽力を得て、今回、増刷されることになった。それを記念する集まりだった。

共用品がなぜ思想なのか。

共用品は、シャンプー容器にギザギザをつけてリンスと区別するなど、暮らしに不便さのある人となりがともに使えるものであり、開発、利用、規格化で日本が世界をリードしている。

共用品の意義は、モノの使い

日本福祉大学客員教授

# 後藤 芳一



ことである。

そうしたあり方が、時代や分野を超えて有効(普遍的)である可能性がある。

それゆえ、共用品への取組みに、「思想」という性格があるという主張である。

思想とは、自然や世界のとうえ方、人の生き方の原則のようなものである。

その意味で人類共通の財産であり、徳の高い姿勢で生きる人々には、それを生んで磨く役割がある。

共用品について、言葉や理念

さらに、その考えを実践する人がふえて世の中が変わる必要がある。それにも時間を要する。

では、共用品はどうか。共用品にも長い時間が必要か。

ここで、共用品には思わぬ強みがあることに気づく。実践指向であり、「団体戦」で取り組んできたことである。

言葉から入らなかつた分、実体があり、理論で仕切らなかつた分、心や感性の部分(論理より次元が上)が動いた。

包装容器、家庭電化製品、玩

に最もチェックの厳しい人たちの目にとまり、辛い目で見ていただけの可能性があることである。

集まりは、元は昨年3月に出版記念の大きいパーティーとして企画された。日本点字図書館理事長の田中徹二さんが呼びかけて下さった。

企画は震災によって延期され、ではまたいつか、増刷でもされれば、と仲間と夢を話していた。

今回、それが実現した。

本書が出版されたあと、震災や経済の厳しい局面という、波を経験している。

筆者としてのひいき目かも知れないが、思想としての共用品の価値は、揺らぐどころか、一層価値を増したと考えている。

「共用品という思想」という本の意味のひとつは、文字にしたことで、気持ちで分かり合っていた仲間の外の、より多くの人たちに検証作業に加わっていただけることである。

岩波書店から出していただけただけで、世界に寄与していきただけで、こころに届いたこと

## 共用品という思想と波超え輝く普遍性

連載 152



勝手を改良することだけでなく、幅広い利用者の存在や、利用者が求めることに気づき、当然とされてきた開発やデザインを考えなおす、不便さのある利用者も建設的なたちで参加する、それらを通じて不便さのある人たちが社会参加しやすくなることである。

これは、モノに関わりながらも、即物的なことにとどまらず、世のありようを委ねる、そのための心の姿勢をもつことである。

から始めるのではなく、現場の実践を基点に思想を生むとすれば、特異点のような人が理念を唱えてくつきり始まる米欧などは、別の道があると示すことになる。

「共用品という思想」という本の意味のひとつは、文字にしたことで、気持ちで分かり合っていた仲間の外の、より多くの人たちに検証作業に加わっていただけることである。実践に根ざす原理・原則を形にして、世界に寄与していき

「明日死ぬと思えば、今日をどう生きるか。いま、この瞬間を必死に生きること。それが、永遠を生きることになる」(大阪大学平野俊夫総長)

先月の終わりに大阪で、高野山大学小川修平記念講座が主催する講演会「宇宙の摂理への想い―科学と宗教の立場から―」が開かれた。

会場となった大阪市中央公会堂は、700名を超える人たちで、札止めの盛況になった。この講座は、精密バルブを作る中小企業であるフジキン(本社：大阪)の社長を務めた故小川修平氏の遺志で、高野山大学に設けられた。

講座のテーマは、「宗教と科学の対話」とされた。

講座をはじめるとあたり、9月のはじめに、開講記念式典と特別講演会が、高野山にある、高野山大学で開かれた。

特別講演会では、高野山真言宗管長・金剛峯寺座主・高野山大学名誉教授である松長有慶氏から「仏教と科学」と題する講演があった(松長氏は、高僧の敬称である「猊下」を付して呼ばれるが、「こ」では略して記す)。

松長氏は、高野山大学の学長や日本仏教会の会長などを歴任し、スイスのダボス会議に招か

日本福祉大学客員教授

# 後藤 芳一



## 高野山大学小川修平記念講座

# 宗教と科学の対話

連載 153

ために科学の体系を構築した。

その後、ルネサンスを経て、人間中心の近世文化に移った。キリスト教などの一神教の神と強い力を持つ教会の呪縛からの解放を通じて、科学が宗教から独立していった。

デカルトの物心、二元論がそれを代表する考え方であり、物に心の要素を入れて考えることは排除されることになった。

このような考え方が近代科学の発展、産業革命、経済的な繁栄を生んだ。

一方その延長として、公害や

ある。

地球がかわいそつとか、絶滅していく生物種を人が守るといふ感覚ではなく、もともと生きものにも人と変わらない生存権があるというところからはじまる。

これは無生物物まで神として敬つてきた民族的な感覚に、仏教の教えで裏付けを与えている。

細分化するのではなく、全体としてみる。自分を中心として対立するものと見るのではなく、存在するものすべてが宇宙の中に含まれて一体であるとい

著書「仏教と科学」

岩波書店、1997年、「いのちつながる松長有慶講演集」(高野山真言宗総本山金剛峯寺開創法会事務局、2012年)などがある。

前者は永く品切れだったが、講座発足に合わせて復刊された。

今年もまた、紅葉と銀杏の季節が過ぎた。生きものは静かになるが、次の季節への準備も始まっている。全部が関わり合っ

身近な自然や生きもののなかに答えがある。我々の先輩が学び、伝えてきた真理である。

中小企業と高野山、気がつけば、日本の誇る看板ごしの組み合わせなのだった。日本の根底を支えてきた両者である。

両者が組んで、300年あまり続いた科学のあり方に一石を投じる。東洋・日本の知恵を織り込むことでそれが可能になる。その先に、科学に新たな活躍の道が拓けるかもしれない。

そういえば、高野山の開祖である弘法大師も、現場の実践と高野山での瞑想を往復したのだ

れるなど、インド・チベットから日本にいたる密教史研究の世界的権威である。

松長氏のお話のなかに、この講座の立脚点がある。要約すると、

「かつては、アジアはもとより古代ギリシャから中世まで、宗教と科学は一体であった。ピタゴラス、コペルニクス、ガリ

レオ・ガリレイといった人たちが、科学だけしたのではなく、自然の中に神の造形を賛美する

地球環境問題、生命倫理など、影の側面も生んだ。

科学の発展によって生じた、あるいは表面化した問題であり、科学をさらに発展させると

いう、これまでのやり方では解けないことが分かってきた。

こうした時代のなかで、密教の教えは、課題に対処するいくつかのヒントを提供できる。

「一切衆生」は、人だけでなく、動物も植物も、つながりあって生きているという考え方で

う感覚である。多角的な視点もある。違いをみつけて排除するのではなく、多くの価値基準を用意しておい

て、何かに当てはまれば取り入れていく(密教の象徴である曼荼羅の図には、別の宗教の神様までもが位置づけられている)「フジキンの広報誌」50(創

の11月号に掲載された松長氏の講演録などから筆者が意識した

より詳しくは、松長有慶氏の



「近代化とは、見方によっては地球・人類規模の西洋化だった。その西洋世界の根幹にキリスト教があった」(キ) (出典は文末)、一部意識(以下同)(キ)

「日本はキリスト教についてほとんど理解しないまま近代化してきた」(キ)「近代の根っこにあるキリスト教を『わかっていない度合い』は、おそらく日本がトップ」(キ)

「我々の社会、地球は大きな困難にぶつかっており、近代というものを全体として相対化しなければならぬ状況。結局は西洋を相対化しなければならぬ」(キ)「こういう状況の中で新たに社会を選んだり制度の構想をクリエイティブに行うには、どうしたって近代社会の元の元にあるキリスト教を理解しておかねばならない」(キ)

「優れた文化を持つ日本は解決に寄り添って来た。ただ、日本に特殊性があることは本質に迫る道を遠くする恐れもある。日本はどこが違うのか。」

「一神教と仏教と儒教には共通点がある。それは、もう手近な神々に頼らない、神々を否定している点。日本と正反対、世界の標準はこっち」(キ)

「伝統社会の多神教は、素朴で自然とバランスをとる人びと

日本福祉大学客員教授  
**後藤 芳一**



# 考える法 近代・西洋を問い直す

連載—169▶▶

の信仰。自然と調和して自然の背後にいるさまざまな神を拝んでいれはすむ。日本はめずらしく、こんな信仰がいまも続いている」(キ)

「自然科学はキリスト教の文化から。主権、人権、近代民主主義など宗教色を脱した概念自体が、実はキリスト教の産物」(キ)

一方、日本が影響を受けてきた仏教も、とてつもなく深い。それは仏教、儒教、神道・国学・

合し、世界の隅々に遍在、人格性がなくなり法則性になった。究極的に言えばこの宇宙の原理そのもの」(仏)

一方、社会に働きかける姿勢は弱い。「仏教は観念のレベルでは人間中心主義だが、社会的行動は消極主義的。キリスト教は能動主義」(仏)

それが日本人をつくってきた。日本人の精神史で大きいのは仏教、儒教、神道・国学・

ある。シャレード・ダイヤモンド「銃・病原菌・鉄」(草思社文庫)である。

同書は「文明発展の一步目は各地域の環境で決まり、人々の能力の違いではない」「東西に広がる大陸は自然が似ているので文化の伝搬が速い」とする。

欧州と日本はユーラシア大陸の両端にある。日本は影響を受けつつ特色も維持している。具体的な側(下流)をみる

と、中村桂子「科学者が人間であること」(岩波新書)がある。

「近代の科学者はいつか科学が世界を語り切れると考え、今もそうめざしている」「科学による理解が優れ、日常感覚での理解は遅れているとする」

「説明できることがわかることなのではない」「(人が)自然の中にある」という意識、日本は先進国として世界に互いつつ、なわが葉の時代の感覚を残している」と、近代文明を考えなおす切り口を示す。

新年度が始まった。プロ野球は開幕前にキャンプを張り、1年間プレーする身体をつくった。

筆者は冬のあいだ、こうした本を読んでいた。新しい課題に向きあって問いを立て、それを解きに行く。それには、考える枠組が要る。

のり多い1年にしたい。

※出典と記号は「キ」：橋川大三郎・大澤真幸「ふしぎなキリスト教」(講談社現代新書) / 「仏」：著者同じ「ゆかいな仏教」(サンガ新書)

「世界の根底が、存在できているとはみない。個人も生命も、思考の素材となっているものはすべて、とりあえずの暫定的な存在であり、言い換えると現象である」(仏)

「石が存在するなどと言つのは間違いだ。時間を早回しすれば、石はみるみるうちに小石となり砂となり、分解してみえなくなる」(仏)「『空』が存在すると言ってしまうと『空』が実体化されていることになるので、『空もまた空』だ」(仏)

「ブッダは覚った後この世界とその上流には、文明の視点が

これらキリスト教と仏教の2冊の本は、社会学の視点である。

その上流には、文明の視点が

\* シルバー産業新聞 (2014年4月10日) より。

日本での徳(徳義、モラル、心の行儀)と智(智恵、インテリクト、物事を考え理解する機能)への姿勢について、次の指摘がある。

「徳の効果は社会で形にするには智の力が欠かせない、それにも拘わらず日本では徳に偏って尊重している、おまけに徳の自身は社会を広く見るの(公德)でなく自身の周りにしか見ない(私徳)、さらに、徳は西洋に大きく劣らないが智ははるかに遅れている、智に注力すべき」

これらは、福沢諭吉が「文明論之概略」で指摘した(岩波文庫、書いたのは明治8年。

次の2段落は同書からの引用(一部意訳)である。

徳については「古来我が国で徳義と称するものは、専ら一人の私徳のみ」「自分から働きかけるのではなく、物に対して受身の姿となり」「公德は一層責むべきなのに徳義のうちに加えず、往々忘るる」「私徳の一方に偏したるもの」

智については「数万の人を救い、万代の後に功業を遺したものは、聡明叡知の働きによってその私徳を大いに用い、功德の及ぶところを広くしたため」「誤りの大きいものに至っては、全く智恵のことに無用とする者も

### 日本福祉大学客員教授 後藤 芳一



# 考える法 サンマ、銀杏、虫の音 - 本屋

連載 - 175

内の深くに思索が向かう(仏教が代表例)。

一方、西洋は自己の外にある世界を自己の側から見て働きかけるようになってきた。

かつて日本では、高い徳を持って暮らしているもの、社会の指導者層や組織の意識が内に向かいがち(自らと向きあい自身の徳を高める)傾向があった。

社会のしくみも内輪で閉じがちだ。そのため、外に向く動きが見えにくかったのではないら。

波から多く出ているので、両者を合すると2年連続だ。

筆者は丸山眞男「日本の思想(岩波新書)、同『文明論之概略』を読む」(同)を経て「文明論之概略」を手にした。丸山は「文明論之概略」に学んだ(これほど戦前から何回とかぞえきれないほど繰り返し愛読し、近代日本の政治と社会を考察するうえでの精神的な糧となったような、日本人による著作はほかになかった)『文明論之概略』を読む上(か)ら。

この点、確立した文明の中にいるために過去のごとは推察するしかない西洋の学者と比べると優位だ(今の学者の僥倖とは即ちこの実験の一事にして、しかもこの実験は今の一世を過れば決して再び得べからざるものなれば、今の時は殊に大切な好機会というべし)「(概略)から引用」。

なきにしもあらず」

筆者も10年ほど前に、社会的企業(起業)をめぐることで東西の文明について考えさせられた。

個々のモラルが高いとされる日本ながら、社会的企業や事業モデルで、日本発で世界に広がっているものが少ないのはなぜか。

東洋では自己は世界の要素として存在する、真理は自己の内にある、よって、外から自己の

この推論自体は違っていない

と思うが、「文明論之概略」は100年余り前に、それを徳と智の面から詳しく論じていた。

自分で考えることも大切だが、すでに説かれていることは謙虚に学ぶことが大切だ。

昨年は岩波書店の創業100年、(こ)しは丸山眞男の生誕100年。日本の知をリードしてきた両者であり、書店にはコナが設けられた。丸山の本は岩

「概略」は、西洋と比べて日本思想を考ふる際の原典だ。随所で深く考えさせる。

例えば当時、西洋よりはるかに遅れているので注力すべきとされた智は、今日の日本は世界をリードする位置にある。

いまなら福沢はどう言うか。肝心の徳はどつなつた、智も本質を押さえているかと、またきついタマを投げてきぞうだ。

もう一点、「概略」が書かれ

そのぞく好機がきた。

「概略」を書かせたのは、明治維新をまたぐ時に生きた幸運と責任からも知れない。

では本当に、時代の変わり目は明治維新だけで「再び得べからざる」ものなのか。

高齢化、エネルギー、グローバル化、情報化。いまの時代も大きい境界線をまたぎつつあるのではないか。工夫次第で機会はいくらでもある。

サンマ、銀杏、虫の音。本屋

そのぞく好機がきた。



時代の補助線  
— 図からみる針路

# 経営の社会性について考える

後藤 芳一

東京大学教授・中小企業診断士

国内外の金融緩和、TPP、原油価格、COP21 など大きい動きが続いた。今後も予断を許さないが、それぞれの影響の程度は見通しがつき、株価や為替の反応ぶりも学習を終えたように思える。

さて、こうした状況の下での“一年の計”である。少し長い目で経営を考えてみるのはどうか。目的と手段という言い方があるが、手段の上位にある目的について再確認するのである。景気と足下の業況を見て手を打つこと(W)を手段とすれば、目的は戦略や事業モデルを確立すること(X)だ。ただ、経営の持続(Y)を目的とすれば、戦略や事業モデル(X)は持続を実現する手段になる。目的と思えることにも、さらに上があることになる。

では、経営の目的としては持続すること(Y)が最上なのか。確かに、経営を続ければ雇用を担い税金を納めることで社会に寄与できる。ただ現実には、それでは足りない状況が生じており、世界で取組みが始まっている。「経営の社会性」を広く捉えて実践する動き(Z)である。これには、大きく分けて3つある。

第1に、国連が昨年9月に2016~2030年を対象期間とする「持続的な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」を採択した。その前身となる「ミレニアム開発目標(Millennium Development Goals: MDGs)」(2000~2015年

が対象)が途上国の貧困対策を目指したのに対し、SDGsは社会的課題全般に広げ、先進国をも対象にした。今後、このSDGsが国連の各機関や各国政府の政策に反映する。

第2に、ESG投資である。環境(Environment)、社会(Society)、企業統治(Governance)の視点で事業や投資の価値を測る。2006年に国連が「責任投資原則(PRI: 責任ある投資家の取るべき行動)」(投資判断にESGの観点を組み込んだり、投資先にESGに関する情報開示を求める)を提唱したのが契機だ。年金積立金管理運用独立行政法人は昨年9月にPRIに署名し、安倍総理が国連総会演説で表明した。今後、政府が資金運用や投資を行う際はESGが重要な指標になる。日本は遅れていた(例: EGS投資は世界の運用資産の2割超、欧州は5割、日本は1%未満といわれる)が、普及が加速しそうだ。

第3に、経営者が社会目的で多額寄付する動きが増えた。マイクロソフト共同創業者ビル・ゲイツ夫妻の取組みが代表的であったが、フェイスブック最高経営責任者であるザッカーバーグ氏と妻も昨年12月に、保有する同社株の99%(5.5兆円相当)を教育、医療、ネットの普及などの支援に寄附すると発表した。動きは30~40代を中心とする米国若手経営者に広がっている。

3つの動きの背景には社会的課題の大きさ

## 今月の図：経営の社会性

1. 経営の“目的と手段” (W → X → Y → Z へ, 社会性は高次に)
  - ・ 足下の状況対応 (W) < 経営戦略 (X) < 持続性 (Y) < 社会課題解決 (Z)
2. 経営の社会性めぐる動き (その1：国連長期目標)
  - ・ 「持続的な開発目標 (SDGs)」 (2016～2030年) (国連2015年9月採択)
  - ・ 「ミレニアム開発目標 (MDGs)」 (2000～2015年) から SDGs へ範囲を拡大
3. 経営の社会性めぐる動き (その2：EDG 投資)
  - ・ 環境 (E), 社会 (S), 企業統治 (G) で事業や投資価値測る
  - ・ 「責任投資原則 (PRI)」 (2006年国連) が EGS 投資の契機に
  - ・ ESG 投資は世界運用資産の2割超, 欧は5割, 日本は1%未満, 今後普及加速か
4. 経営の社会性めぐる動き (その3：経営者が社会目的で多額寄付)
  - ・ 30～40代の米国若手経営者が主導 (例：B・ゲイツ, ザッカーバーグ)
  - ・ 慈善事業 (過去) → 企業の社会的責任 (CSR, 今世紀) → 成功経営者が取組み (今後)
5. 背景と意義
  - ・ 背景：課題の規模, 国際的広がり, 各国では対応不能, 課題の深刻化
  - ・ 要請：国際的視野, 総合的視点, 政府以外の力, 財源確保と効率化
  - ・ 意義：①経営者自身が環境担う, ②現役で開始, ③経営能力を課題解決へ活用
6. 日本企業の課題
  - ・ 従来は持続性 (Y) が中心, 社会課題 (Z) の国際共通性から今後は要請高まる
  - ・ 徳の高い本格派企業には, 実力発揮の機会

(例：貧困, 格差, 環境), 課題の国際的広がり, 各国政府の対応の限界 (例：政府は国内のみ対応可能), 先進国自身の課題の存在, 課題の深刻化などがある。その結果, 国際的視野・個別課題を超えた総合的視点・政府以外の力の活用・財源確保と効率などの要請が生じている。こうした要請を受けて企業の取組みは, 慈善事業 (過去) → 企業の社会的責任 (CSR, 今世紀に入る頃から) → 成功した経営者の事業マインドによる取組み (現在～今後) へ深まっている。

その意義は, 第1は, 企業活動は健全な社会があることが前提であるにもかかわらず, 現状はそれが満たされないため, 経営者自身が担おうと始めた, 第2は, 引退後では間に合わないため, 現役の経営者が取組み始めた, 第3は, 経営で実証した能力を社会課題への対応に充て始めた点である。

企業経営の最上位の目的は経営の持続 (Y) だけでよいのか, 社会に働きかけること (Z) は要らないかが改めて問われている。もちろん, 米国と日本では社会と企業の関係に違いがあり, 企業に求められる役割も異なる。その一方で, 課題は国際的に広がっており, 急ぎの対応が求められていることも事実である。

W → X → Y → Z と進むにつれて, 高い徳をもって経営する“本格派”の企業にとっては, ますますその厚みと真価を発揮できることになる。長い目で経営を考える際に, 視野に入れてはどうか。

### 羅針盤

社会の課題を広く視野に入れると, 経営の目的は, さらに先があるとわかる。このコラムは, 今回で区切りになる。ご愛読, ありがとうございます。